

授業科目	学習・認知心理学 I (感覚・知覚・学習・記憶)				
担当者	武藤 拓之				
実務経験者の概要					
学科名	言語聴覚専攻科	学 年	1 年	総単位数	1 単位
		開講時期	前期	選択・必修	必修

■ 内 容

言語聴覚士に必要とされる学習・認知心理学の諸分野について解説する。前期は「感覚」「知覚・認知」「学習」「記憶」「対人認知」に関する内容を扱う。特に、本講義では心理学と日常生活との関連性を示す身近な例を数多く紹介する。また、講義内容の理解を促すために、図や写真、動画などの視聴覚教材を多用し、教室内での実験やデモンストレーション、グループワークなどのアクティブ・ラーニングも適宜実施する。

■ 到達目標

以下の5つの問いに対して、心理学の用語と具体例を用いて分かりやすく説明できる。

1. 生体はどのようにして外の世界や自己についての情報を受け取るか？(感覚)
2. 入力された感覚情報から、どのようにして主観的な世界が構成されるのか？(知覚・認知)
3. 生体はどのようにして新しい知識や行動を獲得するか？(学習)
4. 記憶はどのように形成され、保持され、思い出されるのか？(記憶)
5. 他者に対する印象はどのような要因によって規定されるか？(対人認知)

■ 授業計画

- 第1回 科学としての心理学／心理学の歴史
- 第2回 感覚(1)：感覚の種類と成立過程／心理量と物理量の対応
- 第3回 感覚(2)：網膜と視知覚／色彩の知覚
- 第4回 知覚・認知(1)：形の知覚／奥行きの知覚／運動の知覚
- 第5回 知覚・認知(2)：知覚の適応性(錯視と恒常性)／知覚の可塑性
- 第6回 知覚・認知(3)：オブジェクト認知／注意／感覚間の相互作用
- 第7回 学習(1)：古典的条件づけ／オペラント条件づけ
- 第8回 学習(2)：さまざまな学習(条件づけの展開／技能学習／社会的学習)
- 第9回 学習(3)：動機づけ
- 第10回 記憶(1)：記憶の過程と分類
- 第11回 記憶(2)：短期記憶とワーキングメモリ／記憶の神経基盤
- 第12回 記憶(3)：記憶術／長期記憶
- 第13回 記憶(4)：忘却
- 第14回 対人認知：印象形成／対人魅力／認知的不協和
- 第15回 前期のまとめ／確認テスト

■ 評価方法

筆記試験：70%
毎回の小レポート：30%

■ 授業時間外の学習(予習・復習等)について

講義内で配布した資料を次回までに改めて読み通して復習しておくこと。参考図書の該当部分も併せて読むことを推奨。

■ 教科書

■ 参考図書

書名：心理学（第5版）

著者名：鹿取 廣人, 杉本 敏夫, 鳥居 修晃

出版社：東京大学出版会

■ 留意事項

■ 講義受講にあたって

受講生の要望や関心に合わせて講義内容を多少変更することがあります。本講義の内容に関する質問、批判、意見などは歓迎します。小レポートの自由記述欄やメール等で伝えて頂いてもかまいません。